

武州みたけ 第五十号

五月十五日に行われる男具那社祭。
奥の院への入り口にある大きな鳥居の前で
お祓いをした後に男具那社へ向かう。険し
い山道を歩いていると涼しい風が吹き込ん
でくる。神さまが目の前を通り過ぎていく
ような不思議な感覚を覚える。この心地よ
い風に包まれる瞬間を毎年楽しみにしてい
る。

(写真・文 鶴巻育子)

第四十五回 武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

応募総数 三百三十八句

選者 岡田 日郎

特選

一席 神領に一声放ち初鵜羽村市 杉原功一郎
 二席 白衣干す端に柿吊り御師の宿 藤原功一郎
 三席 囀のしきりの宮へ出仕巫女 中野区 辰巳行雄
 四席 むささびの住む宿守り老夫婦 松戸市 林みさき
 五席 大太鼓打って始まり元旦祭 青梅市 原島康典

秀逸

新玉の年の山路や栗鼠走る 青梅市 津布久信雄
 天空の神代杉の淑気かな 中野区 中村譽子
 天袋にむささびの住み御師の宿 大和市 木林優子
 春耕のだんだん畑や老夫婦 新座市 長谷川崇
 木守柿からすのつつく御岳かな 日の出町 渡邊敏雄
 式年の赤き幟や山桜 杉並区 澤田俊平
 千年の櫻むささび顔を出す 所沢市 遠藤康雄
 登山道ゆるゆる進む神輿かな 羽村市 小沢弘子
 目に見えぬものの広さや鴈高音 北区 いなだ伊佐木
 山の子の下校満作咲きにけり さいたま市 土肥寛子

佳作

霧雨を浴びて神代けやきかな 相模原市 関 迪子
 切り林の櫻幣立ち冬山路 藤沢市 栗田眞紀子
 山頂より山頂仰ぎ桜の芽 志木市 新宅待春
 汗ばみて御岳の宮を詣でけり 名古屋市 梶田遊子
 歩み休めて御師集落のソーダ水 世田谷区 川村祐子
 うくいすや朝湯にひとり神の宿 杉並区 木村聖哉
 おしなべて石に影あり秋河原 八王子市 上村一夫
 御岳山頂から眺め山桜 鎌倉市 長谷川脩尽
 雪残る展望台から発車ベル 青梅市 関根康子
 神の住む武蔵御嶽や青葉風 横浜市 広瀬智子

選者吟 むささびと栗鼠棲み神の大櫓

奉納俳句選評

特選一席

神領に一声放ち初鵜 杉原功一郎

「初鵜」が新年の季題。鵜は古書『古事記』の神の代からその名がある。わが国では神の森を住み処とする。よって霊鳥でもある。元朝の「一声放ち」により新しい年が始まる。

特選五席

大太鼓打って始まり元旦祭 原島康典

わが国の各地の社殿の「元旦祭」はいずれも「大太鼓」の怒濤のような音響とともに「始まる」。年の初めの緊張のひとつときといってもいい。

特選二席

白衣干す端に柿吊り御師の宿 千家妙子

「白衣」は御師の礼装である。晩秋初冬のころ、物干竿にわずかな吊るし柿とともに天日に干してある趣。御師の住居の暮らしの一端。

特選三席

囀のしきりの宮へ出仕巫女 辰巳行雄

「囀」は早春の季題。夜明けとともに百鳥が一斉に声を発する。その時刻、早出の「巫女」が「宮へ」と「出仕」の道を急ぐ様子のような。

特選四席

むささびの住む宿守り老夫婦 林みさき

「むささび」は一年中いるが冬の季題。人をそれほど恐れない。「宿」の軒場に「住み」ついに「むささび」とともにある「老夫婦」のおだやかな暮らしがしのばれる。

第四十六回 奉納俳句募集要項

- 一、作品は未発表に限る
- 一、受付は指定用紙にて投函箱へとする（郵送等直接の受付は致しません）
- 一、締切り 平成三十二年一月十五日
- 一、発表 平成三十一年三月中旬
- 一、四季を通じ「御岳山を題材」とした俳句を募集しております。
- 一、大勢の方の投句をお待ちしております。

お ち 日 郎 岡 田

昭和七年十一月三日生まれ。
 福田蓼汀（りようてい）の「山火（やまび）」に投句し、昭和二十六年から編集を担当、蓼汀没後の平成二年主宰となる。山と自然を称える山岳俳句を多く詠み、五年「連嶺」で俳人協会賞。東京出身。学習院大卒。本名は晃。著作に「山の俳句歳時記」など。

奉納

(二万円以上・敬称略)

平成二十九年九月一日

平成三十年一月三十一日

十万円以上

坂戸市 吉野 勝利
調布市 山口 一夫・玲子

五万円以上

西多摩郡瑞穂町 有限会社 金咲通産

青梅市 代表取締役 金咲 強
株式会社 荒井電業社
代表取締役 荒井 成典

一万円以上

府中市 竹内 善孝
青梅市 S H I デンタルクリニック
東村山市 小町 幸生
福島県白河市 松本 智子
さいたま市 宮井 利香子
西東京市 名古屋 善一
さいたま市 深井 明
さいたま市 伊藤 美幸
羽村市 「清」
練馬区 東海林 守
川口市 濱中 満江
練馬区 大泉 辛西講
講元 加藤 友久
羽村市 渡邊 真理
西多摩郡奥多摩町 樋口 タマ
葛飾区 小村 高平
越谷市 倉重 美喜
青梅市 瀧 柱郎
株式会社 清水製作所
代表取締役 清水 浩久

灯籠奉納

(二万円以上・敬称略)

平成三十年一月一日

平成三十年一月三十一日

五万円以上

大田区

(株) ティエラ・リサ・セシル
本道 真智子
山梨県市川三郷町 (株) 丸井紙店

一万円以上

武蔵村山市 有限会社 サンベアー



ご奉仕による
ベンチ修繕

十一月二十七日、青梅青年会議所 O B 会、会長 西村 博様以下六名の方による、ベンチ六台の修繕をご奉仕頂きました。新品同様に生まれ変わり、来山者には有難い休息の場となっています。
有難うございました。

太々神楽奏上

近年太々神楽奏上が少なくなっており、太々神楽はどなたでも奏上いただくことが出来ます。皆様のお申込をお待ち申し上げます。
詳しくは、社務所までお問合せください。



山桜苗木奉納と植樹

十一月二十八日、多摩の桜をつなぐ会による、山桜の苗木をご奉納いただき、富士峰園地に植樹を致しました。貴会においては毎年ご奉納頂いております、桜の生長が待ち遠しいところです。この富士峰園地はかつて、富士峰本桜として名勝地でしたが、野鳥「うそ」の食害などが原因で、現在はほとんど残っていません。
ご奉納有難うございました。



御岳山の行事

平成三十年

一月	一日 元旦祭
二月	三日 太占祭
三月	初午 稲荷社祭
四月	八日 春季大祭(祈年祭)
五月	二十二日 奉納俳句奉告祭
六月	二十九日 奉納剣道大会・介山祭
七月	八日 日の出祭(神輿渡御)
八月	十五日 男具那社祭
九月	二十四日 神楽と雅楽の一般公開
十月	二十四日 滝行体験講座
十一月	三十日 夏越大祓
十二月	十四日 レンゲシヨウマまつり
一月	十四日 薪神楽
二月	二十二日 滝行体験講座
三月	八日 カンタンを聴く会
四月	二十九日 大口真神社祭
五月	二十四日 流鏝馬祭
六月	二十四日 一日修行体験講座
七月	体育の日 神楽と雅楽の一般公開
八月	十三日 天空もみじまつり
九月	八日 秋季大祭(新嘗祭)
十月	二十三日 末社祭
十一月	九日 みたけ山トレイルラン
十二月	二十三日 天長祭
一月	三十一日 大祓
二月	六日 第四次曜日 夜神楽
三月	八日 月次祭
四月	八日 日供祭

東京都無形民俗文化財指定

太々神楽公演

今年一月六日(土)から九日間、羽村市生涯学習センターゆとりぎにおいて、「御嶽神楽展」が催されました。最終日十四日(日)には、大ホールにて「天空の御嶽神楽」と称し、浦安の舞太々神楽四座が公演され、会場を埋め尽くすお客様には大変喜んでいただきました。



公演風景



展示室にて、神楽装束などを展示



※太々神楽は神前で奏上され、神様をお慰めし、また共に楽しむものです。最上の参拝方法で、申し込まなければ見ることは出来ません。今回は舞台上に御神号を掛け、神前として皆様にご覧頂きました。



式年大祭記念事業 高額寄付者芳名碑

平成二十九年に行われ、西年式年大祭では多くの皆様のご厚情により記念事業も行われ、無事盛大に斎行することが出来ました。衷心より感謝申し上げます。裏金とともに、高額寄附者芳名碑が平成二十九年十一月八日秋季大祭に併せ竣工をされましたことをご報告いたします。



修行体験講座

十二年毎の式年大祭、霊山御嶽山の御稜威もより深くなる年を迎え、「再生」「誕生」「転生」を強く感じていただける事と思います。神道行法は、己と向き合い、強靱な精神を養うだけでなく、心身に癒され新たな自分と出会う機会となるでしょう。是非ご参加下さい。また、十名以上のグループや研修会等での修行体験を受け付けますので、ご希望の方は社務所にご連絡ください。※今年度の一泊二日・修行体験講座は都合により行いませんので、悪しからずご了承ください。

流行体験講座

- ① 日時 六月二十四日(日) 午後一時集合
- ② 日時 七月十七日(月) 午後一時集合

一日修行体験講座

- 日時 九月二十四日(日)
- 開催人員 三十名まで
- 費用 一万円(申込金・五千円)

日の出祭

5月7日 宵宮 午後8時
5月8日 本祭・行列出発 午前10時
供奉料 三千円・五千円・一万円以上

本年は本神輿の渡御がございます。
※詳しくは神社へお問い合わせ下さい。



敬神奉賛員募集のご案内

今年に入り当社では、敬神奉賛員の募集を開始いたしました。左記の趣旨にご賛同いただき、ご入会下さいますようご案内申し上げます。

趣 旨

敬神奉賛員は、御嶽大神の御神徳を敬う皆様が平穩無事に暮らせますよう、皆様の心の拠りどころとして、また武蔵御嶽神社の更なる護持発展を目的に創設いたしました。

奉賛員の皆様方には、ご健康・ご多幸を御嶽大神にお祈りし、当社の各祭典・行事等のご案内をする他、様々な特典が用意されており、心より祈念致しております。

いかなる時も御嶽大神のご加護のもと、皆様が心豊かに楽しく過ごせますよう、心より祈念致しております。

特 典

- 一、入会されますと、ご神前に入会の報告を行い、奉賛員台帳に登録し、奉賛員証を交付します。
- 一、ご神前に奉賛員名簿を添え、家内安全・健康・長寿・家運繁栄をご祈願します。
- 一、大祭日を除き、ご参拝の折に奉賛員証を呈示いただければ、随時ご本人のみ昇殿のうえ修祓・玉串拝礼が出来ます。
- 一、ご本人のみ奉賛員証を呈示いただければ、宝物殿開館日に無料拝観が出来ます。
- 一、六月末の「夏越しの祓い」には形代をお送りします。
- 一、年二回発行する「武州みたけ」を贈呈いたします。
- 一、新年を迎えるための御神札・年間行事日程等、お送りします。
- 一、当社の各祭典・行事等（節分祭・日の出祭）をご案内します。

※詳しくは、社務所までご連絡下さい。

- 宝物殿 - で特別展を開催 『近世 御師の活躍とおいぬ様』展

本殿前に座する青銅製のお犬様は、文化四年に奉納されたと伝わっています。江戸時代に造られたとは思えないほどデフォルメされ、現代的なお姿です。古くは、お犬様を信仰する人々が奉納した木像のお犬様だったと云われています。元禄時代の造宮以降、山頂という厳しい環境の為、社殿は何度も大破してしまいます。同時に木像のお犬様も壊れてしまったのかもしれない。そこで、木像のお犬様から鋳型を取り、永久に残すため青銅で造り納めたいと思います。

最近、台座に残る銘文から、文化四年より二十四年も古い天明三年に奉納されたことがわかってきました。奉納者は後に大宮司となった金井権頭郡明です。病身のため、大宮司の任期はわずか四年でした。天明という、天明二年から数年間続いた東北から関東地方を中心にした天明の大飢饉が思い浮かびます。冷雨、地震、噴火によって大凶作になり、餓死者、病死者が続出



したと云われています。そんな深刻な状況の中、永代に残るおいぬ様を奉納した背景には、人間に降りかかる最悪な災いを防いでほしいという想いと深い信仰があったのではないのでしょうか。この青銅製のお犬様は、山上から世の中が平穩になることを願いつづけていたにちがいないと思います。今回の展示は、おいぬ様信仰とその信仰を広めた御師たちの活動についてご紹介します。人々の暮らしの中にある心の拠り所として御岳山は存在し、それを支え続けている御師たちがいます。日本から消えつつある御師が、現在も活発に活動し続ける御岳山の永い歴史とおいぬ様とのかわりあいに触れてみて下さい。

境内整備等費用の御奉賛のお願い

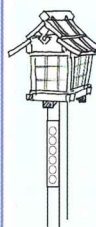
当社は、古来より関東の霊山として広く知られ、時の権力者から庶民に至るまで人々の心の拠り所として親しまれてまいりました。永い歴史の中栄枯盛衰こそあれ、江戸期には二度の公儀普請が行われるなど幕府からの篤い信仰を得て、また江戸中期頃からは庶民の御嶽詣でが盛んになり、その信仰は今なお続いております。

しかし山頂に鎮座する神社のため、今まで幾多の天災地変の影響を受け、また老朽化による補修など様々な修復が行われて参りました。

今後も広大な境内の整備は必要不可欠であり、皆様に気持ちよくご参拝いただけるよう毎年少しずつ補修・整備を進めて参りたいと考えております。つきましては、本趣旨に深いご理解とご賛同を賜り、皆様方の心からの御奉賛を仰ぎたくお願い申し上げます。

境内地整備の一環として「灯籠」ご奉納受付を開始します。

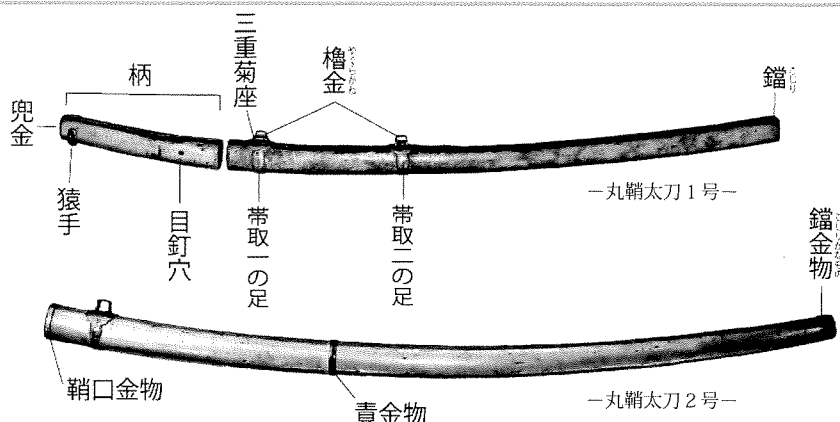
※詳しくは、社務所にお問合せ下さい。



〔連載〕武蔵御嶽神社宝物シリーズ 27
市指定有形文化財「金銅丸鞘太刀拵」残欠二口

日本風俗史学会 会員
 前青梅市文化財保護審議会会長

齋藤 愼一



「丸鞘太刀」とは、中世、柄も鞘も一様に鍍金の銅板でおおいつくした太刀の外装（拵）をいいます。

長覆輪太刀から覆輪を除いた簡潔な意匠ですが、全体が輝く豪華なものとされました。古くは、藤原定家の『明月記』建暦三年（一一二二）七月二十五日条に「丸鞘」の例があります。しかしこれは平べったい平鞘に対し、肉置き（こしき）のよい太めの拵を称する用例です。

本稿でいう鍍金板張りの中世太刀の遺例は、現在のところ、春日大社に国宝と重要文化財が二例（平鞘）、愛知県の猿投神社に四例、他に残欠一例、和歌山県の淡島神社に重要文化財一例、他に個人蔵四例の計一二例で、鎌倉末期から南北朝期とされています。

『長門本平家物語』卷一八で平家の公達能登守教経が「丸鞘太刀」を『太平記』卷二で護良親王が「兵庫鉾の丸鞘太刀」を、卷一〇では、北条家一門の名越尾張守が「金作りの丸鞘の太刀」を佩き、卷二で高師直が「金作りの丸鞘太刀」を恩賞にしています。豪華な派手やかな太刀拵です。

これら現存する丸鞘太刀は、その柄反り浅く、中ほどでおだやかに反る

姿で、鎌倉末期から南北朝期の一時期に流行したとされています。

武蔵御嶽神社には二振（口）分の拵の残欠があります。鎧金物の簡素化の傾向はあるものの、やはり同時期の太刀姿です。

丸鞘太刀は、前記したように長覆輪太刀から覆輪部分を取り除いた型式ですが、柄先の兜金物から猿手、柄元金物、鞘口金物、帯取金物、貴金物、鎧金物は簡素ながら完備していて地板をしつかり固定させている点は注目すべきで、簡にして豪華な意匠といえます。

御嶽神社の丸鞘太刀は、二例とも全体が鍍金した銅板で覆われ、柄・鞘共に刃方と棟方で鐙付け（ハンダ付けの類）で接合したうえ、木鞘にかけて前記した要所の金具できっちり締めつけます。柄先の兜金物や鎧金物が他の例では、花尖型の覆輪であるのに筒型であるのは、鞘口や柄元、貴金物の帯金と共に鍍金板の堅固な固着を意図したもので、効率的に簡素化の傾向があり、時代が多少下降するかもしれませんが。

柄と鞘が揃う、柄長18.5cm、鞘長60.5cmで、目貫・柄元・鞘口・鎧・貴金物を欠失したもの一振を、丸鞘太刀一号とします（以下一号）。帯取金物は同じ瓶子型、一の足（前方）の鐙台の下の三重の菊座を欠失。後方の帯取は欠失します。これを丸鞘太刀二号（以下二号）とします。共に鐙（多分丸鐙）、切羽は欠失です。

さて、現存最古の御嶽神社の神宝目

録は、「享保四（一七一九）年六月廿八日武州御嶽蔵王権現内陳（陣）神宝目録」（黒田家文書）で寺社奉行あての書き上げです。冒頭に、現在の重文指定の「金銅長覆輪太刀」を「奥之院御太刀」とし、「しんちうさや」とあります。

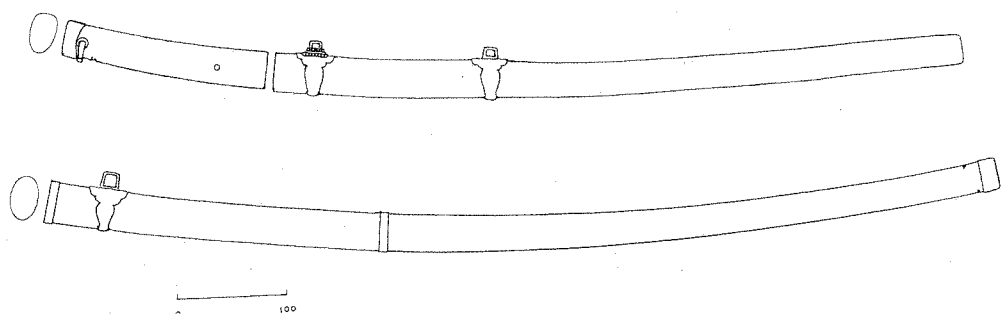
真鍮鞘とは、中世の金銅装太刀装を指すものでしょう。「御太刀 しんちうさや 右同断（前項の権現之御太刀との伝承と同じ）式尺一寸五分」のように刀身の長さと共に計五振を書き上げています。一号と二号の丸鞘太刀には、刀身があつたはずですが。

その後、二振の金銅丸鞘太刀の中身は、神宝上覧もあつて、真鍮鞘から白鞘に保護のために移され、中世の外装は近世刀装の華美に比較すると一見、粗製に見えるので、顧みられなくなり、ついには残欠状態になったのでしょう。刀身の発見照合を期待します。

そして大正一四（一九一五）年の『東京府報告書』で、やっと「金銅丸鞘太刀残欠」として一号の鞘のみが報告されたのです。

しかし、中世太刀拵として類例は少なく、今となると貴重です。

まず一号の太刀は、柄を接続すると、全体の中ほどで緩やかに反って3.6cm、鳥居反で、鎌倉末、南北朝期と思われる。柄頭には、筒形の兜金物をはめ、深さ1.5cm、縦径3.1cm、横径1.95cm、猿手の鵜目の金物を意識して下縁を削り上げます。猿手の鐙の厚さ0.65cm、ひらき3.4cm。柄元は、金物を欠失状態で、



— 模式図作成 — 西岡 文夫 氏

幅(高) 3.5 cm、厚さ 2.05 cm を測定して、中ほどより幅と厚さを増します。柄の短さと共に片手使いでの握りを意識したようです。目貫穴は、径 0.5 cm、中心より柄元まで 4.2 cm の辺です。鞘は 65 cm で、二号と同じく鞘のみで測って 1.8 cm と浅く、その上短めですが、地板に折損のあともなく全体に違和感はありません。鞘口で幅(高) 3.6 cm に厚さ 2 cm、二の帯取り金物の辺で 3.1 cm に 1.9 cm、末端で 3.2 cm に 1.5 cm で、二号より太めです。帯取足金物の瓶子形の中心からの間隔は 20 cm。二の足の菊座三重欠失。二の足で地板は切断、二の足下で前方の地板を細釘で木鞘に打ち止めて接続しています。松材製の木鞘は、鞘口の佩表側が多年の抜刀のため極端に摩耗し薄くなって欠損し、奉納以前の激しい実用の痕跡を残しています。木地の表面に黒漆塗布の跡がかすかに残るのは貴重です。地板の長さは鞘口から 20 cm 程。二号に比べて鍍金の汚れ、擦れが目立ちます。実用を重ねた後の奉納とします。刀身の状況と照会するのを感じます。

次に二号は鞘だけの残欠で、長さ二尺五寸(84 cm)の刀身です。中ほどで反りが 3.5 cm です。鞘口と鍍金の金物は筒形です。鞘口辺りでの幅(高)は 3.75 cm、厚さ 2.2 cm、鍍金近くで幅 2.65 cm、厚さ 1.95 cm、という肉置きの豊かさで、まさに太さも平鞘ではなく丸鞘です。地板は、鞘口と鍍金の金物でしっかりと押さえ、棟方と刃方の合わせ目は乖離する

ことなく旧状の丸やかさ(造形面での)を保っていて貴重です。輪郭は古様な瓶子形を保つ帯取りは鍍金の三重菊座欠失、木瓜形の座の棟沿いの花矢形もよい形です。二(後)の足は早くに欠失したらしく、その位置は、地板の鍍金の状況からは確認できません。足合(帯取金物足の間隔)は一号と同じくらいで 20 cm 強でしょう。

本来は鍍金近くにあるはずの带状の貴金物は、随分前方へよつていて、鞘口から 30.5 cm の辺にあり、杏葉のない簡素な帯金で幅 0.7 cm、その下の地板の輝きから、旧来からこの位置であつたと思います。この位置で鞘の幅(高)は、3.5 cm、厚さ 2.05 cm という丸鞘にふさわしい太さです。帯金の厚みは 0.2 cm でかまぼこ形です。鍍金物は縦径(高) 2.7 cm、横径 1.55 cm、深さ 1.4 cm の筒形です。柄口と共に鍍金。この鍍金物の座から棟方へは 1.8 cm、刃方へは 7 cm の地板の合わせ目に、一条の深い鑿の打ち痕をつけていますが、用途は不明です。一号の柄頭から 2.7 cm のところの刃方の地板の合わせ目にも同じ痕二条があります。工人の符調でしょうか。

この二号の鞘については、帯取金物と貴金物は鍍銀なので、いわゆる「足白の太刀」という鎌倉時代風の意匠であることは特筆すべきです。二号と仮称しましたが、「足白鍍金丸鞘太刀残欠」と称すべきかもしれません。

この二振りの御獄蔵王権現に古くから伝来した中世の金銅装丸鞘の太刀の

実用年代、そして奉納年代をあえて想像すれば、秩父重忠と深い由縁をもつ児玉党有道氏の本流である庄権守の後裔の如きが御獄蔵権現の社僧である世尊寺の六世住持であつた歴史が連想されます。如見の父の四方田三郎左衛門尉貞綱は北条氏被官として、主君の連署北条政村と共に元弘三(一二三三)年五月二二日の鎌倉幕府滅亡に殉じたらしい。また祖父・父七郎左衛門尉尉為綱は嘉元三(一一三〇)年四月二三日の嘉元の乱に加わって誅殺されました。如見はこれら一族の戦死、あるいは主筋の菩提の為に貞治二年八月六日開版の御獄(普濟寺)版経『大方広仏華嚴経』巻一や二などに「嘉元(三年)戦亡(戦死した)諸霊」「元弘(三年)戦亡諸霊」また祖父や父、主君筋の北条時村や茂時の名もあげて、追善供養の經典刊行の施財を行っています。

武蔵七党の児玉党の武士の家の如見と、一門の人々に関わる戦乱、悲劇の歴史が御獄に古く伝えられた金銅丸鞘太刀の年代と相応することは、偶然とは思われぬものがあります。しかも、社僧・世尊寺は古くは神宝を管理していたと考えられるのです。

丸鞘太刀の調査協力また、文献の博搜と示教は、共に山岸素夫先生門下の西岡文夫氏の得難き学恩です。山岸先生と淡島神社の丸鞘太刀の大阪城で調査の折りの貴重な学恩も明記します。

神社の杜(五十)

「雨乞いの龍」 東村山市の昔話から

片柳 茂生

東村山市には、前に紹介しました昔話「鬼の善意」のほかにもう一つ御嶽山にまつわる昔話「雨乞いの龍」がありますので、今回はそれをご紹介します。紙面の都合上原文を少し変えて掲載する事をご了承下さい。ではそろそろ始めましょうか……。

今の秋津町あたりは、昔は特に日照りに弱い所だった。夏の七月から八月にかけて雨が全く降らない年なんかもあって農家はすいぶん難儀したんだと。遠くから水を汲んできては作物に水をかけるのだが、すぐに干上がってしまうしつづだった。

「このまんまだと、冬を越せねえ。どうすべ」

村役たちが集まっていろいろ相談するのだが、こんな時はたいいてい

「雨乞いをすんべえ」



イラスト：紺野美織

という事になる、そして百姓たちは、真剣になって雨乞いの準備を始めるのだった。

村人の中から足の速いものが二人一組で何組か選ばれ、この者たちのうち一組が代表として御嶽神社に遣わされた。神社に着いたら神様に、雨が

降るように熱心に祈願して、それから『七代の滝』に行き、その滝の水を、持ってきた青竹の筒にいれて村まで持ち帰るのだが、さあてここからが大変だ。

村へ帰る途中でちよつとでも休んだりすると、その休んだ場所に雨が降ってしまうという言い伝えがあるので、休むことなんかできないのだと。そこで、途中で二番使い、三番使いが待つていてその水を手渡して休むことなく走って村まで帰ったのだと。

持ち帰った水は、氷川様まで運ばれ、大桶に入れられ、そして神主さんに祝詞をあげてもらい「大山大将、大山大将」と掛け声をかけながらその水をひっかけあい、その後みんなで柳瀬川に繰り出して、川の中でも威勢よくもみ合ったり水をひっかけあったりするのだが、その姿は岸で見てもおもしろい見物だった。

この秋津の雨乞いは、昔、持明院の寺宝だった『雲中の竜』という掛け軸を掲げて行い、必ず雨が降ったのだった。そのため雨乞いの時には干し物はするなといったたり、雨が降ったら村中あげてうどんを打ったり、まんじゅうを作ったりして、一日仕事を休んで神様に感謝する日にしたんだってさ。

つい何年か前に神社でも雨乞いを行いましたたが、そのやり方はこの昔話の内容とそっくりでした。そしてこの雨乞いをした地域ではすぐに雨が降ったらしいですよ……。

皆さん、雨乞いの時は御嶽山を忘れずに！

平成二九年度地域文化功労者賞受賞
齋藤慎一先生

「武州みたけ」において宝物シリーズで連載いただいている齋藤慎一先生が、長年に亘る青梅市やその周辺の文化財調査・保護活動にご尽力された功績に対し、平成二九年度・地域文化功労者として文部科学大臣より、昨年十一月に表彰されました。

当社が所蔵する宝物の調査と古文書から御嶽の歴史を紐解き私たちにご教示下さっています。時代にあわせ様々な価値観の中、先人達の苦勞と想いによつて今があることに、現在をどのように繋いでいくか改めて向き合う機会を私たちは得ています。

受賞に際し、心からお祝いを申し上げます。

宝物殿案内

開館日 土・日・祝日のみ
開館時間 九時三〇分～十六時

※ 季節により毎日開館する場合もありますので、HPまたは社務所までお問合せ下さい。

表紙写真

「男具那社へ」

撮影 鶴巻育子

あとがき

春を迎え、桜開花の声も聞こえ始めました。「さくら・さく」「さくら・ちる」。桜が咲く美しい姿だけでなく、桜が散る儚さを感じて言葉を紡ぐ日本人の心。誰もが持つ美しい心を柔らかな春の日差しのように、いつでも心の中に暖めていけたらと思います。

奉納俳句選者岡田日郎先生、齋藤慎一先生、フォトグラファー鶴巻育子様、片柳茂生様、玉稿をあらがとうございました。

平成三〇年 三月三十一日発行

編集 武蔵御嶽神社

TEL 〇四二八(七八)八五〇〇
FAX 〇四二八(七八)九七四一

印刷 (株)成和印刷
http://www.musashimitatejinja.jp/